

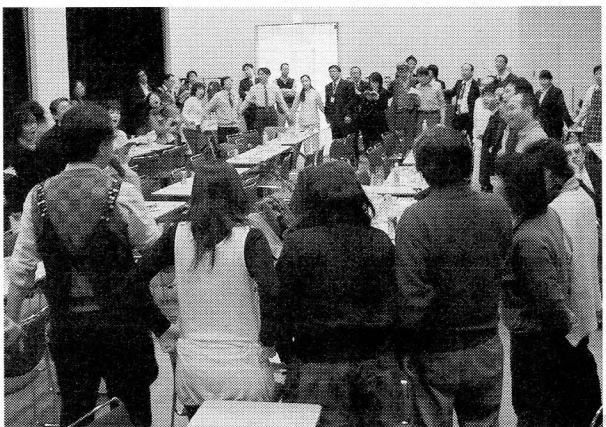
憲法9条フェスタに120人

映画「蟹工船」、うたごえ喫茶などに終日集う

保険医協会が呼びかけて設立した「おおさか医科・歯科九条の会」と「OM九条の会・大阪民医連九条の会共同センター」が共催し、日本国憲法第9条を守る世論を高めるための春のイベント「憲法9条フェスタ in OSAKA」が、3月29日（日）の終日、保険医協会と保険医協会M&Dホールで開催され、120人が映画鑑賞や講演を聞き、夕方ほったごえ喫茶を楽しみました。

午前10時からと夕方に上映された映画「蟹工船」は、プロレタリア作家・小林多喜二原作で、1953年に俳優の山村聡が監督、出演して制作。昭和の初期に航海法や工場法の適用を受けないために悪徳周旋屋が介在し、企業は儲けのために労働者をモノ扱いで過酷な労働を強いる。そして労働者たちは自然発生的に立ち上がる、だが…。

昨今、新自由主義政治で労働法制などを規制緩和し、日本を代表する大企業が競って労働者を低コストの派遣に切り替えて史上空前の利益を上げ、しかし不況となるやそつしたトップ企業がいち早く派遣労働者を解雇し、労働者が寮も追い出されて路頭に迷うという昨今の状況が、新たに資本主義の問題性を告発し、戦前の小説であるこの「蟹工船」への共感を広げています。そつした経緯から今回の上映となりました。



上＝「うたごえ喫茶」
右＝子ども向けバルーンショーのひとコマ

感銘の品川正治氏講演

午後は、元日本興亜損保（旧日本火災）の社長・会長、経済同友会終身幹事で国際開発センター会長の品川正治氏を招き、「戦争・人間・そして憲法9条」と題する2時間余りの講演が行われました。

品川氏は、学業の半ばで戦争に徴兵され、戦場で多

アメリカの世界戦略も変え、世界史も変える力になると結びました。かつてわが国の経済界の中軸にあり、なお大きな影響力をもつ品川氏のこの講演は、人々に深い感銘と確信を与えました。（次号で紹介）

その他にも、昼の時間には子ども向けの「ユリちゃん」のニコニコバルーンショー」が行われ、目の前で細長い風船がキリンやネズミ、ドラえもんなどに变身するパフォーマンスに、大人も大いに沸きました。また別室では、広島・長崎の被爆パネル写真や、一昨年の「戦争と医学」展に出展されたパネルの一部などが終日展示されました。

夕方は「M&Dホール」で、70年代にうたごえ喫茶に関わり、現在もその活動を続けている関係者を招いて「うたごえ喫茶」が開店し、楽しくまた懐かしい歌を、リクエストを受けてみんなで、あるいは舞台上に立って歌い、最後には参加者全員が肩を組んで歌い、楽しく有意義な一日を終えました。



自身の体験と想いを語る品川正治氏（正面）と聴き入る参加者

品川氏は、学業の半ばで戦争に徴兵され、戦場で多くの友を失い自身も傷を負い、辛くも生き延びて日本に帰還する船の中で、日本国憲法案と特に戦争を放棄する第9条の存在を知ったという氏の原点を紹介し、「戦争を人間の目で見て否定了」のが世界に例のない今の日本国憲法だとし、同じように「経済を人間の目で見る」ことが品川氏の経済人としての基本テーマだったと語りました。そして、戦争を起すのも人間だが、しかしそれを止める努力ができるのも人間であり、人々が主権者国民として、国民投票や国政選挙で改憲や戦争をはっきりと否定することを呼びかけ、それが日本の政治だけでなく

品川正治さん記念講演
戦争・人間・そして憲法9条
2009.3.29 憲法9条フェスタ in OSAKA